

文章としてのまとまりを持たせるためには、時間の流れに矛盾がないように文を続ける必要があります。また、ある時点での出来事を言っているのか、ある時間幅における状態のことを言っているのかをはっきりさせることも大切です。現在形・過去形が必ずしも現在のこと・過去のことを表すわけではありません。

A 現在形の文の特別な用法

1. 歴史的な記録

過去の事実でも歴史的な記録の場合は現在形を使うことがあります。

例・1868年、明治時代が始まる。

・16～18世紀のヨーロッパ諸国では、国王が専制政治を行う絶対君主制が確立する。

2. その場にいるような感じを出す効果

小説などの描写文(過去形の文章)で、現在形の文を使ってその場にいるような感じを出すことがあります。視点が過去のその場面に移動します。

例・マキは外を見た。雪が降っている。間もなく日が暮れる。今日は家にいようと思い直した。

・9月になって転校生が入ってきた。名を次郎と言った。黙々と本を読む。弁当を食べる。授業が終わるとさっさと帰る。そのうち「黙りん次郎」というあだ名がついた。

B 過去形の文の特別な用法

1. 記憶の確認

かつて一度記憶したことを確認するときに過去形が使われます。

その場で思い出したときに「の(ん)だった」がよく使われます。

例・会議はあしたでしたか。あざってだと思っていましたか……。

・あ、いけない。赤ちゃんが寝ているんだ。静かにしなくては……。

2. 事実に対すること①

「～のだった・～べきだった・～はずだった・～ところだった」などの形で、実現しなかったことを表します。

例・今では後悔している。若いとき留学するんだ。

・警察はもっとよく調査するべきだった。



3. 事実に対すること②

事実に対することを仮定して、それが実現していれば、後のことが起こったはずだ(しかし、実際は起こらなかった)という意味を表します。文末に「～のに・～んだけどなど」をつけることがあります。→第3部2課

例・温度管理をする余裕があれば、いい花が咲いたんだけど……。

・あの日急用がなかったら、わたしもパーティーに参加できたのに。

C 動詞の「ている形」の特別な用法(「～ていた」の形で)

1. 事実に対すること

過去形を使うよりも、反事実であることがはっきりします。→第3部2課

例・こんなに大変な仕事だとわかっていたら、断っていたら。

・母がもっと長生きしていたら、わたしは母と一緒に暮らしていたかもしれない。

2. 報告

他者の発言を報告するときの言い方です。

例・ゆきさんは今日は来ないと思います。風邪を引いたと言っていましたから。

D 名詞を説明する文の時制

1. 動きを表す動詞を使った場合は、主の文との時間的前後関係で時制が決まります。

例・来月ロンドンに行ったとき、ロンドン郊外にいる友人を訪ねてみよう。

・新幹線の中で食べる弁当を、東京駅で買った。

2. 特定の時点を表さない場合は、主の文の時制に関係なく現在形を使います。

例・去年、宅配便で毎週花を自宅に届けてくれるサービスを頼んだ。

・最近、エスカレーターでお年寄りがつまづく事故が3件も起きた。

3. その時点でまだ実現していないことを表す名詞(可能性、目的、恐れ、計画など)を説明する文では、主の文の時制に関係なく、現在形を使います。

例・医師は病気が再発する可能性を説明した。

・汚染状況を調べる目的でデータを集めた。



練習1 どちらか適当な方を選びなさい。

わたしはよく後悔する。中でも自分で(①a 言う b 言った)言葉を後悔することが多い。あんなことを言わなければ(②a いい b よかった)。どうしてあんな言葉が口から出てしまったんだろう。無意識のうちに(③a 出てきている b 出てきてしまった)言葉だ。でも、わたしの口から出た以上、わたしに責任がある言葉だ。わたしの心のどこかに(④a 隠れて b 隠れていて)、我慢できなくて(⑤a 出てきた b 出ていた)のだ。かといって、慌てて拾ってまた口の中に戻すことはできない。修復できるものならすぐにそうしよう。あれは失言、言い過ぎだったと(⑥a 謝る b 謝った)。体裁が悪いが後悔を引きずるよりはずっと(⑦a いい b 良かった)。それができない場合は、なるべく早く忘れること。そして、次に同じ失敗をしないように気をつけることだ。(⑧a 頼まれる b 頼まれた)仕事を断って、いいチャンスを逃したことも多い。家の困り事とか、子供の問題とか、ちょっと体調が悪かったとかを理由に、せっかくの依頼を断ってしまう。こちらの事態が(⑨a 改善する b 改善した)ときはもう遅い。ああ、あのときちょっと無理をすれば(⑩a できるかもしれない b できたかもしれない)のに、あのときは無理でも、その無理は一時的なものだったのに、あの仕事を(⑪a 受ければ b 受けていれば)、今は充実した仕事を持って、バリバリ(⑫a やる b やっていた)だろうなどとひどく後悔する。

練習2 ( )の中の動詞を適当な形・適当な時制に変えなさい。

- 「今日は早く帰る。(①約束する→ )よ。」と言ったものの、帰れるかどうか自信がなかった。残業しながら(②思う→ )。10年前、別の職業を(選ぶ→ )ば、こんなに残業することは(③ない→ )かもしれないが、今ほど満足は(④できる→ )だろう、と。結局帰宅したのは10時だった。もちろん妻は食事を(⑤済ませる→ )。
- インフルエンザが(①流行する→ )心配がまだ残っている。3年前、インフルエンザにかかってアメリカ旅行に(②行く→ )予定をキャンセルしなければならなかった。予防注射を(③するべきだ→ )と後悔したが、もう遅かった。しかし、あのとき予定通りアメリカに(④行く→ )、母の最期には立ち会えなかったと思う。
- 昨年、小学生が同級生に(①いじめられる→ )事件が3件続いた。そのうち1件は(②いじめられる→ )子供が窓から飛び降りてしまった。幸い命は(③助かる→ )が、親は黙っていない。「現場でもっと真剣に子供を守ってくれていたら、こんなことには(④ならない→ )のに」と抗議している。教育委員会は対策として、学校カウンセラーを増やす計画を(⑤検討する→ )が、結論はまだ(⑥出ない→ )。

まとめ 次の文章を読んで、文章全体の趣旨を踏まえて、1 から 5 の中に入る最もよいものを1・2・3・4から一つ選びなさい。

本書のタイトル『サイクロトロンから原爆へ』は、サイクロトロン(加速器)が科学を象徴し、原爆が技術を 1 ことを示している。—なぜ原爆などという恐ろしい人類絶滅の兵器が生まれたのか? もし科学者や技術者がいなく、科学の発展もなかったなら、あのように恐ろしい兵器も 2 にちがいない。—だれもが考える素朴な疑問である。

しかし、本当に 3。科学の発展が、つまり人類の自然認識の拡大・深化が、必然的に人類絶滅の兵器を生み出すことになったのだろうか。答えは否である。たとえサイクロトロンによって、マイクログラム(1マイクログラムは100万分の1グラム)オーダーのプルトニウムが生成できたとしても、長崎に投下された原爆が 4。せいぜいプルトニウムの原子核特性を明らかにできるだけである。では、どうしていまのような危機的な世界を生み出してしまったのか。本書の目的は、この現代科学の 5 過程を歴史的に捉えかえすことにある。

(日野川静枝『サイクロトロンから原爆へ—核時代の起源を探る—』績文堂出版による)

1

- |          |          |
|----------|----------|
| 1 象徴した   | 2 象徴している |
| 3 象徴していた | 4 象徴していく |

2

- |         |             |
|---------|-------------|
| 1 生まれた  | 2 生まれないうでいる |
| 3 生まれない | 4 生まれなかった   |

3

- |          |            |
|----------|------------|
| 1 そうだろう  | 2 そうだろうか   |
| 3 どうだろうか | 4 どうだっただろう |

4

- |              |                |
|--------------|----------------|
| 1 つくれたわけである  | 2 つくれないわけではない  |
| 3 つくれるわけではない | 4 つくれなかったわけである |

5

- |          |            |
|----------|------------|
| 1 矛盾に満ちた | 2 矛盾に満ちていた |
| 3 矛盾を感じた | 4 矛盾を感じていた |